

メッセージアウトライン

創世記 1:31 ~2:3 「創造の完成」

[1:31]「神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第六日」

神は今やその創造のわざを終えられた。神はお造りになったすべての過程で6回「よし」と言われた(1:4,10,12,18,21,25 節)が、その創造された各々の部分は他の部分と完全に調和を保っており、またそこに住む多くの生物が種類にしたがって増え広がっていく様子をご覧になり、それは文字どおり「非常に良かった」のである。これは創造のみわざの完成にふさわしいことばである。また、この時点では悪しきものの存在は何一つない。造られたすべてのものが個々の存在と全体とのつながり、そして神との関係において「非常に良かった」。そして、夕があり、朝があった。第六日である。

この各々の「日」は進化論の言う何千万年、何億年という地質年代と調和させることはできない。それは文字通り一日(24時間)のことを指すのである。

[2:1]「こうして、天と地とそのすべての万象が完成された」

これは、すべてのものを創造される神のみわざが今完成されたという素晴らしい断言である。

「天と地とすべての万象」とは天地を満たすすべてのものの総称のことであり、この中には天使たちも含まれていたであろう。→ルカ 2:13 サタンは天使の墮落した者のことであるがこの時点ではサタンもまだ良い天使で、彼の反逆と墮落は後に起こったと思われる。→イザヤ 14:12~15、エゼキエル 28:11~16

[2]「神は第七日目に、なさっていたわざの完成を告げられた。すなわち第七日目に、なさっていたすべてのわざを休まれた」

七日目は神が創造のみわざの完成を告げられた日で、他の六日と明確に区別されている。

「休まれた」とは何もされなかったのではなく、新しい創造のみわざをやめられたということであり、それはもちろん疲れのゆえではない。神は人間のようには疲れや弱さを覚えるようなお方ではない。→イザヤ 40:28 神の休息はすべてが神の意志どおりに完成したことの最終的確認であり、創造の完成を示すものである。

[3]「神は第七日目を祝福し、この日を聖であるとされた。それは、その日に、神がなさっていたすべての創造のわざを休まれたからである」

ここでは水中の生き物と鳥(1:22)、人(1:28)に続いて三度目の祝福がなされている。第一の祝福は生き物が増え広がること、第二は人が増え広がることとともに、すべての生き物が本来の目的を果たし得るように支配し管理するための祝福で、第三はこの日を聖とされる祝福である。「聖とする」は語源的には「分離する」で、一般の基準より引き上げられることを意味する。すなわち、七日目は神の目的のために分けられ、他の日より高い段階のものとされたのである。しかし、これは聖である神の祝福、神とのかかわりのゆえの聖であり、七日目それ自体が聖ということではない。神のこの休息の目的は、人が神の目的に従

って生き、安息の七日目を守り、その祝福にあずかることである。七日を一週間とし、七日目を休むという人間の活動のサイクルはここに源があるのである。

第七日目は他の日と違って、「夕があり、朝があった。第七日」という記述がない。しかし、それは第七日がいっまでも続いているということではない。神は「第七日目になさっていたすべてのわざを休まれた」のであり「…休み続けておられる」とは書かれていない。創造のみわざはもう終わっているのである。

→ヘブル 4:3

神の創造のみわざは六日間で完成し、第七日目には創造のわざを休まれた。それゆえ、現在この世界で起こっている過程は神の天地創造の際に起こった過程ではないことを私たちは知っておかなければならない。現在この世界で観察できる過程は熱力学の普遍的な法則によって規定される。

①熱力学の第一法則（エネルギー保存の法則）…ある熱力学系とその周囲との総エネルギー量は、たとえそのエネルギーがいろいろな形を変えても、常に一定に保たれるという法則。

②熱力学の第二法則…（エントロピー増大の法則）「エントロピー」とは混沌を意味することば。

ある系の分子運動が秩序正しい状態から無秩序状態に移ることは自然である。すなわち秩序あるものは崩壊する（無秩序）方向に進み、その逆はない。例として、時間の経過とともに新車も古びてくる。新築の家も傷んでくる。熱力学において、熱は必ず温度の高いものから低いものへと伝わって行く。例として熱くなった鉄に氷を乗せれば氷が溶けるが、その逆はない（不可逆性）。この不可逆性がどれだけ強いかを数値で表す概念がエントロピーであり、エントロピーが増大すればするほど不可逆性が強いということになる。

現在この世界で起こっていることは、この二つの法則で説明できる過程であるが、創造の時に起こった過程は熱力学の法則とは反対のもので、無から有が生じ、エネルギーのないところにエネルギーが生じ、無秩序から秩序が生じ、生命のないところから生命が生じたのであり、これはすべて全知全能の神による創造と製作の過程であった。

このようにして神の創造のみわざは完成した。そしていよいよ人間に焦点が当てられてくる。私たち人間は神のかたちに似せて造られたものである。それゆえ人間は神を抜きにしてはこの世界の説明ができず、理解もできず、また何のために生きているのかという人生の意味と目的も理解できない。神の祝福によって、人はこの地に増え広がり、地を従え、神が創造されたすべての生き物を支配し管理する役割を与えられた。人は神によって創造されたものであるの、この神との関係、神とのつながりの中で生きなければならない。しかるに人間の歴史を見るとときにそのようにはなっていない。これは人間の罪と神への不従順のゆえである。それゆえ人はこの神に立ち帰り、神との正しい関係を回復する必要がある。